

将来計画特別委員会の設立について

将来計画特別委員会

委員長 菊田 惺 志

放射光科学は最近、急速に発展し、研究分野はますます拡大しつつあり、それに伴い研究者・技術者人口は増加の一途をたどっています。純粋科学の進歩のみならず、応用科学・技術への発展はめざましく、産業界へも大きなインパクトを与えています。

周知のように、放射光科学において放射光利用研究と放射光光源研究は互いに不可分の関係にあります。利用研究における要請が光源研究のあらたな発展を促し、また高性能の光源の出現が利用研究の新しい展開をもたらしています。したがって将来的に放射光科学の一層の発展をめざすとき、利用研究についての展望をもつとともに、放射光リングの建設計画に重大な関心をもたざるをえません。放射光科学の発展は将来計画の成否にかかっているといっても過言ではありません。

最近、全国的に放射光リングの将来計画が多数提案されています。これのおもな理由は、第一に放射光利用が高度化していることが挙げられます。研究の進展に伴い、光源に対する要求が高まってきました。輝度、強度の増大、円偏光の利用、短波長域への拡張など実験に適した光源を強く望むようになってきました。第二に放射光の有用性が広く認識されて、放射光を利用する研究者・技術者が急激に増えてきていることによります。現在利用可能な放射光施設の数に限られており、ニーズに応じきれない状態になっています。諸外国でも同じような状況で、多数の将来計画が立案され、建設中のものもあります。

放射光学会は放射光に関連する科学技術の発展をめざして設立され、学術情報の交換や研究交流などの事業が活発に行われています。一方、学会を設立しようとした動機には、将来計画に対する取り組みも大きな課題としてありました。そのような経緯で第6回評議員会におきまして佐々木会長から「将来計画特別委員会」設置の提案があり、承認されました。委員会は2年間の時限であって、放射光施設関係者、将来計画立案関係者、学識経験者などから構成されます。11月9日に第1回委員会が開催され、全国の放射光将来計画についてアカデミックな立場から議論することになりました。放射光リングの建設には巨

額の資金と長い年数を要しますので、長期的な展望のもとに全国的な視野で議論する必要があります。はじめに大型光源の科技庁計画と高工研計画について議論が始まりました。ついで全国の中型光源の計画について議論されます。それらの計画に対する学会としての見解をまとめ、報告書をまとめる予定です。必要があれば、要望や提言も出すこととなります。

多くの会員の方々が放射光将来計画に関心をもたれることを期待しますが、それには将来計画の現状について正確な情報が伝わるのが先決であります。本誌で今回からシリーズで始まる将来計画の特集記事はそのような観点から企画されたものです。来年4月の年会の際には将来計画に関するシンポジウムが開かれ、委員会の中間報告も含めて討論していただく予定です。お近くの委員の方を通じて、あるいは書面で委員会にご意見をお寄せ下さることも歓迎いたします。会員の意向が反映された、学会の見識を示す報告書がまとまることを念じております。ご協力のほどお願い申し上げます。